

2026年7月2日

各 位

GMO コマース株式会社

連結子会社 GMO デジタルラボ株式会社による「GMO デジタル Pay」への生成 AI 機能 搭載に関するお知らせ

～データを自動分析する『AI データサマリー』を 2026 年 8 月提供開始、グループの AI 活
用が進展～

GMO コマース株式会社（東証グロース市場 証券コード 410A）の連結子会社である GMO デジタルラボ株式会社（以下、GMO デジタルラボ）は、本日、提供する電子マネー・商品券等の電子化サービス「GMO デジタル Pay」に、生成 AI で利用データを自動分析する『AI データサマリー』機能を搭載することを公表いたしました。当社グループの AI 活用の進展に関する事項として、以下のとおりお知らせいたします。

1. 新機能『AI データサマリー』の概要

「GMO デジタル Pay」は、事業者が発行するハウス電子マネー（自社の店舗等に支払いが限定された電子マネー）、商品券、株主優待券などの電子化を支援するサービスです。今回搭載する『AI データサマリー』は、事業者が同サービス上で保有する売上・利用状況・購買傾向などのデータを生成 AI が自動で分析し、分析結果と改善施策案を文章化する機能です。経営層向けの事業報告から加盟店向けの報告まで、6つの用途別レポートを自動で作成できます。

これにより、運用担当者のレポート作成にかかる手作業を削減し、データに基づく迅速な意思決定と効果的な販促施策の立案を支援します。提供開始は 2026 年 8 月を予定しております（利用には別途オプション契約が必要です）。

2. 開発の背景

キャッシュレス決済やデジタルツールの普及により、事業者は売上や購買履歴などのデータを蓄積できるようになった一方、「詳細な分析を手軽に行いたい」「保有データから具体的な改善策を導き出すのが難しい」といった声が寄せられていました。こうした課題を解決するため、GMO デジタルラボはダッシュボード（重要情報をひと目で確認できる画面）機能の拡充に加え、本機能を開発いたしました。本機能により「GMO デジタル Pay」は、決済手段にとどまらず、データを活用したマーケティングプラットフォームへと進化してまいります。

3. 当社グループにおける AI 活用の進展

本件は、当社グループがグループ横断で進める AI 活用の一環です。当社本体においても、2026 年 7 月 1 日に店舗向け AI 検索対策サービス「GMO 店舗 AIO」の提供を開始いたしました（同日付適時開

示をご参照ください)。「GMO デジタル Pay」の『AI データサマリー』と「GMO 店舗 AIO」は、いずれも事業者が保有する狭域データの利活用を、グループの AI 技術によって高度化するという共通の狙いを持つ取り組みです。

2026 年 7 月 1 日付で連結子会社化した GMO デジタルラボのサービス群が加わることで、当社グループが店舗・事業者に提供できる AI 活用ソリューションの幅は一層広がり、既存顧客基盤へのクロスセルおよび月額制によるストック型収益の積み上げを推進してまいります。

4. 今後の見通し

本件による 2026 年 12 月期の連結業績への影響は軽微であるため、通期業績予想の変更はいたしません。当社グループは今後も AI 活用を推進し、中期的な業績向上および企業価値向上を目指してまいります。なお、開示すべき事項が発生した場合には速やかにお知らせいたします。

<将来見通しに関する注意事項>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づく当社の判断・仮定によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績等は、さまざまな要因により、これらの記述と異なる可能性があります。

以上

【ご参考】

GMO デジタルラボ 2026 年 7 月 2 日付プレスリリース：

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000005426.000000136.html>

【お問い合わせ先】

GMO コマース株式会社

経営企画部 吉田

E-mail : ir_inquiry@gmo-c.jp

URL : <https://ir.gmoc.jp/contact/>